

第3回藤沢市地域経営戦略100人委員会議事概要

と き 2009年（平成21年）11月1日（日）午後1時30分～

ところ 明治公民館健康プラザ

- 1 開会
- 2 新総合計画策定の審議の状況について
- 3 地域経営戦略100人委員会の役割（第2段階：基本計画編）について
- 4 「ふじさわ未来課題」の収集と分析について
- 5 宿題について

事務局

お待たせをいたしました。ただいまから第3回藤沢市地域経営戦略100人委員会を開催させていただきます。

本日は日曜日にもかかわらずお集まりいただき、誠にありがとうございます。10月にすべての地区で地域経営会議が正式に発足したことに伴いまして、今回から新しい委員さんにも参加をいただいております。すべての体制が整ったこととなりますので、委員の皆さまにおかれましては、改めてよろしく願いいたします。

(日程・資料等の確認)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

事務局

それでは、本日の次第に沿いまして進めさせていただきます。「新総合計画策定の審議の状況について」と「地域経営戦略100人委員会の役割(第2段階:基本計画編)について」、こういったところをまず中心に、ご説明から進めさせていただきます。

玉村コーディネーター 皆さん、こんにちは。慶応大学の玉村と言います。総合計画づくりなどのまちづくりの活動をご一緒にさせていただいております。今まで2回100人委員会を開催いたしました、ある意味今日が正式な発足と言ってもいい日になります。地域経営会議が先月スタートして、今日から新しく参加された方がいらっしゃるからです。是非歓迎の拍手でお迎えください。

(拍手)

今回初めての方もいらっしゃいますので、前回の委員会と重複する部分もあり、また説明、勉強の時間となってしまう申し訳ありませんが、総合計画の概略についてお時間をいただきたいと思います。まず、私の方から策定の概略を全般的にお話しして、実際の活動の経過については、市の長瀬部長のほうからお話しをいただきたいと思いますと考えております。資料は「新総合計画の構造と基本構想策定のプロセス」を使います。

その前に「そもそも総合計画って何なのか」ということですが、地域での活動、まちづくりにとって一番大事、重要で、基本となる計画になっています。生活で実感したことや意見を集めて明らかにし、総合的、計画的にまとめていくことで総合計画を策定し、これが様々な活動の基本になっていきます。

それでは、3ページにあります新総合計画の構造に入ります。総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画で成り立っています。基本構想は、未来に向けての構想、「藤沢らしさ」などを素材にするものですが、あくまでも方向性を示すものです。次に、基本計画、今日からはこの基本計画の検討をスタートするわけですが、基本計画は、基盤となるものですので、来年の6月ぐらいまで丹念に生活で気になっていることや重要なことを見ていく、ということが必要になります。基盤となるものですので、しっかりと示していく必要があります。皆さんの活動に加え、いろいろな人の声を寄せ、皆さんでまとめていくことで

皆さんの計画になっていくと思います。3番目の実施計画は、基本計画でどのようになったら良いかを考えた後、どのように実践、実行するかを示したものになります。

4ページの「藤沢モデル」についてご説明します。総合計画は、ほとんどの自治体で昔からつくられています。藤沢市は、「地域経営」という言葉が示しているとおおり、地域で考えて地域で実践する、地域を応援するという事に挑戦する新しいモデルに取り組んでいます。大半の総合計画は、行政のための計画です。行政の計画というのは、できないことは書きません。行政が責任をもって、できることをできる範囲で着実に実行するためのものなのです。行政は、皆さんの生活の一切を請け負っている訳でもありません。そこで新しい総合計画では、生活実感に基づくこと、地域で持っている課題というものから目指すところを決めて、たどり着けるかは分からないけれど、行政も含めて、皆さんで試行錯誤して進んでいこうとしています。そのためにどういう計画が必要かということに今取り組んでいるところです。ですから、地域で感じていることをたくさん寄せていただいて、またそれをお返ししていくという活動を今まで行ってきました。

次に移ります。基本構想の役割は今までお話ししたとおおりなのですが、基本構想は何かを決めようとはせずに新鮮な素材を皆さんに提供いただいて、総合計画審議会が考えていくということに取り組んでいます。100人委員会としては、ワールド・カフェなどを通じて素材を集めてきましたが、その外にも市の職員が仕事の実感から寄せたものなどをたくさん集めてきていて、12月にはこれらからまとめたものを検討していただくことになっています。

今日からは、基本計画への取り組みを始めます。ポイントは「いかにして良い藤沢づくり」をするかということ、そのためにいかに課題を集めてくるかということです。課題というと悪いことを良くするイメージがありますが、今良いことを更に良くすること、何かに取り組むこと、これらも含めて課題となります。この課題を探って、まとめ上げていくことから基本計画を立てていきます。この課題というものの素材は、生活や活動の中にたくさんあります。生活の中で気づいたことが良くなっていくことが、皆さんにとっていい藤沢に近づく大切なことであると考えています。7ページの実施計画は、実施をするための計画になります。

確認をしますと、総合計画は大切なものであること、総合計画は基本構想、基本計画、実施計画から成り立っていくこと、基本計画が生活実感から気づく課題を探り、まとめ上げていく、メインとなるものであること、これらをご理解いただければと思います。これから取り組む基本計画をいかに効果的なものにするかに、藤沢の未来がかかっています。では実際にこれまでの皆さんの活動が、どのように総合計画の策定に反映しているかなどについて長瀬部長から

お話しをいただきます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

長瀬経営企画部長 皆さんこんにちは。私からは、皆さんから挙げていただいた素材がどのように総合計画審議会が取りまとめる総合計画の策定に反映されていくか、そして今どのような段階にあり、総合計画審議会との合同協議に入っていくか、皆さんとこれからどのように計画を策定していくかについてご説明をさせていただきます。

8ページをご覧ください。今どのように策定が進んでいるかについてお話しします。総合計画審議会では、今、基本構想の検討をしております、結論から申し上げますと、2月に開催される市議会に提出することを目標に進めているところであります。これから皆さんに検討いただくことは、来年の7月頃に基本計画として総合計画審議会に取りまとめ、議会で報告し、その後実施計画を12月頃までに形づくる予定であります。これからご説明いたしますのは、基本構想の策定のステップを7段階に分けて、今どのあたりの作業を進めているのかということであります。100人委員会では、8月から9月にかけて「藤沢らしさ」を挙げていただきました。その外、市役所の若手職員による「わいわい・がやがや・わくわく会議」では藤沢の「強み」と「弱み」という課題を出し、また庁内新総合計画検討会議では、様々なデータと予測に基づく課題を提出しました。それらがこの矢羽根のような図で言いますと、皆さんの思いや予測自体がステップ0(ゼロ)で、ステップ1として計画策定に取り込まれます。この取り込みにあたっては、生活実感や思いによるものと、データを分析したものとの2種類に分けることとしました。そこからステップ2に入り、更に分析を行い、グループ化などを行いました。その際に具体的な施策につながる深掘りや整理は基本計画の策定時に行うため一度外しました。次にステップ3では、これらの課題から読み解かれるアイデンティティやオリジナリティなどの「切り口」と、将来に向けてこなしていかなければならない「軸」というものを検討しました。これが第3回の総合計画審議会で行われ、その後起草部会という実際に文字にしていく作業部会が設置され、基本構想の検討が進んでおります。総合計画審議会以案が策定された後、ステップ7になります。関係者との協議に入ります。これには、100人委員会との合同協議が含まれます。12月12日と1月24日の2回、開催をする予定です。この場で思いとのすり合わせや確認を行っていきたいと考えております。このように策定は進んでいきますが、皆さんに出していただいた「藤沢らしさ」や「地域ごとの課題・実感」のエッセンスは基本構想に組み込まれ、基本的な方向付けを決めていくものになるとともに、今後皆さんで創り上げていただく基本計画においても、またあらためて分析をいただくこととなります。

ここから、皆さんにお出しいただいた「藤沢らしさ」や「課題」を中心に再度お話しをしたいと思います。皆さんの「藤沢らしさ」や「課題」は、定性的なものとして、ステップ1で集め、ステップ2で「都市力と魅力」「次世代への継承」「生活実感と課題」「30年後の未来」「地域の良さや魅力」などのテーマと材料をいただいて、総合計画審議会に提出しました。役人の分析では分からない思いや課題をたくさんいただいたと感じております。また、皆さんからいただいたものを「子育て・教育」「産業」「都市基盤」といった領域ごとの分類もさせていただきました。12ページに移ります。こうしたことを集約して総合計画審議会で議論を進めた結果、キーワードが浮かび上がってきました。「20年後に何を引き継いでいくか」「湘南のもつブランド力をどのように発展させるか」「藤沢の財産である市民ひとりひとりの知力、人力により、どのように素晴らしいまちに発展させていくか」「藤沢のもつ包容力、新旧の融合という資産を受け継いでいく」「行動力を地域づくりに活かし、地域らしい姿を形づくっていく」ということ、また、20年後を見据えた中で、新しい価値の創出や協働、小さな経営、自然資産の継承、公共財の維持などがありました。更に安全安心や地域での子育てなどもありました。13ページですが、これらをもとに方向性を出すということが、まさに今、集中的に総合計画審議会で議論いただいているところです。最終的な文章としての仕立てに今後移っていくということになります。そして12月12日には、皆さんと合同協議を行っていくという予定になっています。短い時間で大変恐縮ですが、現在までの経過についてお話しをいたしました。今日から皆さんには、基本計画の検討をはじめさせていただきますが、引き続きよろしく願いいたします。

玉村コーディネーター 皆さんをはじめ、いろいろな人が鮮度の良い素材を提供して、総合計画審議会の委員がしっかりと考えて取りまとめています。皆さんのひと言が大きな、大切な発見の糸口となっています。基本構想では、答えを出すのではなく、こうした方向が良いのではないかと、こうした仕組みで進めば良いのではないかと、ということを経論的に書くようにしています。

さて、これから基本計画の検討を始めますが、基本計画で必要なことは、これからの藤沢を、地区を考えるに当たって、絶対に検討しなければならないこと、目標としなければならないことをしっかりと浮かび上がらせることです。整理しづらいことではありますが、基本計画ではこの「ふじさわ未来課題」を炙り出すことが重要であるということをお覚えておいてください。そして、この未来課題を炙り出すためには、皆さんが自信をもって、徹底的に調べ上げたと言えることが大切です。全員の声を聞くことは大変ですが、より深く聞くべきところや、聞くべき対象をだんだん絞っていくことなど、是非丹念に聞いたという実感を持っていただける活動をお願いしたいと思います。丹念に聞くことで、作った人だけでなく、地域の皆さんが自分たちの計画であるという意識を

持っていただくことができると思います。皆さんの声も大切なのですが、一部の人が作った他人のものという風に捉えられないこと、共感をもっていただくことが重要なんです。基本計画は基盤となる大事なものですので、作業も大変になりますが、一生懸命市や地域のためにご尽力いただいていた皆さんですから、がんばっていただきたいと思います。是非チャレンジしていきましょう。この後、広く声を集める方法を検討いただきますが、もう少し説明をさせていただきます。それでは資料をご覧ください。目次が何を聞くかの流れになります。藤沢市に生活している中での「気づき」があると思います。皆さんの宿題にさせていただいたこと、これを他の人に聞いてみようというのが、最初の「気づき」を集める作業です。不安をお持ちになるかと思いますが、この「気づき」を深掘り、分析していくことでいろいろなことが見えてきます。その後、たくさん出てきた「気づき」を纏め上げる作業をしていきます。まとめるとひとつひとつの気づきがぼんやりしてしまうと思われるかも知れませんが、ひとつひとつの気づきを結びつけて、関連性をしっかり保っていくという作業を行っていきます。そういう作業を行っていくと、1つの目標にたくさんの声がぶら下がっていくということになります。2月頃からこの気づきを読み解いていきます。以降はポイントだけお話しをしますと、次のテーマは「メリハリ」です。具体的に言うと重み付けです。実際に市民の皆さんに重み付け、すなわち満足であるか、重要であるかというようなアンケートを行っていくという作業になります。そしてどこに注目をしていくかということを検討していきます。地域の経営にとっては、多くの人に参加をしていただきながら、どの程度上手くできているかを測る必要があります。これを測るものが指標です。この指標を定めて計画をまとめていきます。私がお願いすることを着実にやっていただくことで、結果的に計画ができていて、言ってみれば波乗りの感覚でいただければ、ご心配には及ばないと思います。このようなことがしっかりできるのが藤沢の特長でもありますが、既に同じような検討方法に切り替えたところがあります。総合計画以外のものもありますが、折角ですので、ご紹介をさせていただきます。参考事例集をご覧ください。青森、足立区、東海市の事例を載せています。今日集まっていたいただいているとおり、誰もが良い地域を作りたいと願っています。ですが、なかなか上手く行かず壁に当たること、空回りすることがあります。その時に必要なことは声を集めるということです。足立区のプロジェクトについて、ご説明します。足立区の五反野小学校という学校ですが、コミュニティスクールで有名なところです。「開かれた学校づくり」ということをよく言われますが、この学校も学校自治会を作ったりと様々な活動を行っていましたが壁にぶつかりました。何が起こったかという、今の子ども話をしようとしているのに、自分の経験やニュースで見た話しが中心となってしまうのでした。そこで、実際の子どものために、声を集めていこうと

いう活動を行いました。この学校では、全家庭にアンケートを配布して、気になったことを集めるということをやまず実施し、合わせてグループインタビューを行いました。似た経験を持つ方の茶話会のようなイメージです。こうして子どもと接している、実感のある声、「気づき」を集めていきました。「あいさつをしてくる子どもはいるけど、子どもどうしはあいさつをしていないね」「子どもどうしが教えあわないね」といった声がありました。このような声を論理的にまとめてみると、課題が炙り出されてきます。それを重み付けするということです。さらに指標化、数字での目標設定を行います。ここまで来ると課題が共有されて、既に改善されてくるものもあります。ご興味をもたれた方は資料をお読みいただければと思います。順番に説明をしながら進めていきますので、今日全部分からなくても大丈夫です。

(質疑)

委員 意見があります。いろいろ説明をいただいているのはありがたいのですが、進め方に違和感を感じています。まだ、我々が何かを考えて作り上げたという実感がありません。ルールが敷かれた中で、小さく動かされている感があります。このまま進んでいくのでしょうか。

玉村コーディネーター 非常に重要な質問であると思います。今までは、基本構想というものの検討をしていて、緻密に進めることが必要ではありませんでした。大きな方向性を掲げるものであるからです。そして、今日から基本計画の検討に入るわけですが、地域ごとのやり方はお任せします。形式的にルールを敷くというか、やり方の提案としています。実際に列車を走らせるのは皆さんであり、どのような魂を入れていくかは、皆さん自身であり、皆さん次第です。ただ、基本計画が実感を持った声によらなければ、皆さんの生活が改善されたという計画にはならないで、誰かが勝手に決めた計画になる可能性が高いです。そのために手法として、ルールのようなものをお見せしているということでご理解いただければと思います。他の方からも意見がございましたらお願いします。

委員 今、先生からルールの提案と藤沢市民には経験と力があるというお話をいただきました。時代にあった形ということは賛成できるものですが、総合計画2020の基本構想は、今まで藤沢市民が共有してきたものです。是非、引き継ぐべきところ、変えなければならないところの評価を行って変えていくべきであると思います。引き継ぐべきところをベースにして進めていくべきではないでしょうか。もちろん時代は変わっていますし、新しい手法が必要だということも理解できますが、温故知新という言葉もあります。この中にも総合計画2020の策定に携わってきた人もいらっしゃると思います。是非先人の思いに畏敬の念を持って踏襲して欲しいと思います。そうしたことからいいものができると思います。

長瀬経営企画部長 仰るとおりだと思います。総合計画2020は、困難な時代に多くの市民の

皆さんの協力をもとに創り上げてきたものです。引き継ぐべきところは引き継ぎながら、新しい計画づくりをしていこうと考えております。評価については、行政でも行っております。スクラップ・アンド・ビルドなど新しい手法、観点も導入しております。これから基本計画という核となるところに入りますし、地域や市全体で考えていくことを考えながら、継承するところという視点も踏まえていきたいと思っております。何らかの形での情報提供を行っていきたいと考えております。また、今日から始まる基本計画についてですが、地区別のまちづくり計画というものが含まれています。委員さんが考えられたことを、大多数の市民の理解を得ながら進めていくということを目指としています。そのため新しい取組みや仕組みを入れ込んできていますので、よろしくご協力くださいますようお願いいたします。

委員

基本構想について、いろいろなことを出してきてきましたが、現段階で基本構想が出ていません。基本計画に移るということですが、基本構想が最も重要なものであると考えていますので、基本構想の提示をいただいて、議論をし、藤沢市がどんなまちになるのかを見据えた上で、基本計画の議論をするべきだと考えます。

玉村コーディネーター 藤沢市は方向性として明らかに違うことに取り組んでいます。「地域経営」です。基本構想は大切ではありますが、今までは行政が税金を使って活動するための計画であったから、より一層重要なものとして位置づけられていたわけですが、これからは、皆さんと一緒に活動をしていくための計画となりますので、基本構想はもっと大きな方向性だけをうたっていくということになります。そして、基本計画で市民の皆さんの「気づき」をたくさん集めた中で、具体的に目指すものを決めていくという流れになっています。今までの総合計画は具体的な位置づけを決めて、それをだんだん小さくしていくという形のものでした。このやり方をするためには、もっと詳しく、大きく、丹念に聞いていく必要があります。もうひとつ大切なことは、今は試行錯誤しながらでなければ進歩できない時代になったということです。そのために100人委員会の皆さんがいて、試行錯誤や知識、経験を踏まえた活動というものをもとに計画を作っていくということが必要であると考えています。答えのない時代の中で、人口も減っていく、子どもたちも減っていく、税金も減っていくという状況になっています。いかにして生活を良くしていくかというためには、新しいチャレンジが必要です。これらを踏まえて、基本構想については総合計画審議会が考えるために素材を出していただき、基本計画の策定にあたっては、皆さんの活動、策定を前提に、まず「気づき」を集めるという作業をお願いしています。

長瀬経営企画部長 8月～9月に皆さんからあげていただいた「藤沢らしさ」は、そのまま総合計画審議会に提供し、議論をいただいています。この議論の内容と基本構想の

確認のために、12月に総合計画審議会と皆さんとの合同協議を考えています。

委員

基本計画は、基本構想を念頭に置いた時の具体的な課題への対応であると書かれています。その取り扱うべき具体的な課題を考えるためには基本構想が必要でないかと質問しているわけです。

玉村コーディネーター 基本計画は、基本構想だけでつくる訳ではありません。もちろん今後、基本構想が出てきた時には、基本構想の方向性を踏まえて検討する必要があると思います。ただ、今皆さんで活動していこうという内容は「気づき」であって「課題」とは違います。「課題」を検討するに当たって、市民の皆さんが生活の中で感じている「気づき」を広く集めていくという段階です。この「気づき」を皆さんと集約、分析して「課題」に変えていく時には、基本構想が出来上がっていて、それを眺めながら、「課題」と対応方法を考えていこうと考えています。また、基本計画は実施計画のためのものでもあります。実際に行うことを踏まえながら作っていくものなのです。否定しているわけではありません。実際にスケジュールとしては、基本構想の協議もこれから行っていきながら、基本計画のための「気づき」集めを行っていくということでご理解いただければと思います。

委員

質問のたびに新しいフレーズがでてくるのが非常に疑問です。

委員

昨日市長と懇談する機会がありました。地域経営会議は半年前倒してスタートしたということでした。地域経営会議では、「地域のことは地域で考え、地域で実行する」ということで、優先順位をつけながら、皆さんで頑張りたいんだということでした。また市民センターに業務や人を移していこうという構想もお聞きしました。国で言えば地方分権になりますが、これを市で行っていると感じています。国で言えば、外交や防衛など国の役割と地方の役割が決まっていますが、今回の地域でのまちづくりに当たってはどのようになっているのでしょうか。私はこの100人委員会では、市の全体に関わることを検討し、地域でできることは地域に委ねるべきではないかと考えています。

委員

私は、今の進めかたについては違和感はありません。基本計画というものが今出てくることには違和感がありますが、ただ、これからデータを収集して、総合計画2020を参照しながら、新しい取り組み方で検討をしていくということは良いことなのではないかと考えています。

長瀬経営企画部長 まとめてお答えをさせていただきます。今回は、検討の仕組みとして、総合計画審議会、地域経営戦略100人委員会、地域経営会議というところで検討をしていただくということにしています。この中で、基本構想と基本計画については、並行して進めることとしていますので、ご理解ください。次に基本計画についてですが、計画は全市の計画と地域の計画を位置づけ、地域経営のための活動を担保することとしています。そのために、100人委員会では地域、全市という両輪を検討することとしていますので、ご理解いただければと

思います。

(休憩)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

事務局

それでは、後半の議論に入りたいと思います。

玉村コーディネーター 今のような議論がとても大切です。いろいろな資料を提供していますが、あくまでも提案ですので、地域が活きる、地域で活きる形にするために、今後も議論する時間を取っていきたいと思います。一緒に考えながら進めていきましょう。思いだけでは進みませんので、議論を踏まえて行動できる仕組みをつくっていきましょう。説明が足りなかったかと思いますが、今日から基本計画を意識していただくために、基本構想の話から遠ざかっていました。今後も12月と1月は基本構想についての話し合いを行います。今基本計画を考える段階に入りますが、これは「気づき」を知ることによって、基本構想の検討の幅を広げるという意図もあります。時間がなくて全部をお話しできなくて申し訳ないのですが、そのようにご理解いただければと思います。

それでは、今日行おうとしていた内容に入りますが、あまり時間がないので、2つ用意したもののうち、1つだけ行います。予定していたことは、「気づき」を集めるために皆さんで考えるべきことと、「気づき」を集めた後にどのように分析していくかということです。今日は、「気づき」をどのように集めるかということを考えていきましょう。資料では「気づき」の収集のところになります。6ページをご覧ください。「気づき」の収集は、2月まで行いますが、目的は市民の皆さんが思っていることを丹念に集めて、「課題」を設定し、対応をしていくことによって生活実感の向上、暮らしやすいまちにしようということです。皆さんには、第2回から「気づき」の調査シートで思ったことをいただけてきました。同じように、市民の皆さんに聞いてみようということです。これを行うために、どんな風に聞いてみようかという検討をしていただきます。もちろん、今までも地域では、いろいろな調査をされて、データを集めていられると思います。これを活用するという方法もあります。アンケートをする、茶話会をする、など方法は様々です。これに限らず、皆さんのアイデアで、皆さんで地域にあった方法を検討してください。一応、気づきの深掘りについても話をさせてください。「気づきの深掘りシート」がありますが、これは「気づき」の背景や原因、きっかけなどを考えることによって、更に見えてくることがあったり、思っていたことに磨きがかかったりします。この深掘りをするによって、表面的なことだけを捉えることなく、しっかりと本質を見極めていくことができると思います。また、将来像も見えやすくなります。実施計画も立てやすくなります。残りの時間はテーブルごとに話し合いをしていただきます。何を話すかという、先程お話した「気づき」の収集方法です。アンケートで良いのではないかということだけではなく、誰に対して

行うか、アンケート以外の方法はないか、効果的な方法はないか、などを検討してください。また、今日はじめて参加した方もいらっしゃいます。尊重し合う気持ちを大切に議論してください。

(各グループでの検討)

玉村コーディネーター 時間になりました。今作っていただいた記録には、参加された名前を書いていただいて、事務局に提出してください。今後共有できる形にしたいと思います。

宿題のお話しをします。次回に向けてお願いしたいのは、今のお話しの続きをしてくださいということです。地区の方は必ず、領域の方は、領域の幅もありますので、そこまで辿り着くことが難しいかも知れませんが、できるだけお願いします。次回に発表をいただこうと思っています。また、気づきシートと深掘りシートは用意してありますので、個人でもたくさん聞いてみていただく活動をスタートしていただいて、次回提出してください。シートは1月末まで集め続けます。100人委員会以外の場でも集まることも検討いただければと思います。会場や用紙等で必要があれば事務局に連絡してください。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

長瀬経営企画部長 今日いただいたご意見等を踏まえ、今回は合同協議の進め方と基本構想について、ご提示できる範囲でお示しをしたいと思います。また、地域経営会議では、必ずではありませんが、今日の経過などをお持ち帰りいただいて、お話しをいただければと思います。

事務局 皆さんありがとうございました。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(閉会)